

新年のご挨拶 手術支援ロボット (ダヴィンチXi)の導入 創立90周年記念 イベント開催

エキナカフェオープン

認定看護師紹介

日本損害保険協会寄附金による医療機器の整備

市民公開講座開催

クリスマスイベント開催

減塩レシピ

栄養課
おすすめ!

減塩レシピ

〈チキンとアボカドのサラダ仕立て～柑橘ドレ～〉

作り方

- ①鶏肉を食べやすい大きさに切り、袋に入れAと揉み込んで置いておく。
(10分以上)
- ②油を敷いたフライパンで①を焼き、冷ましておく。
- ③アボカド、トマトは角切りにする。
- ④Bを混ぜ合わせてドレッシングをつくる。
- ⑤ ②③を④で和える。
- ⑥サニーレタスを皿に敷き、⑤を盛り付ける。



材料

●2人分

鶏むね肉120g(中1/2枚)
A「すだち果汁※ 大さじ1
酒……………大さじ1
こしょう……………適量
B「すだち果汁※ 大さじ1
酢……………大さじ2
しょうゆ……………小さじ1
みりん……………大さじ1と1/2
オリーブオイル大さじ1/2
こしょう……………適量
※他の柑橘果汁で代用できます

油……………小さじ1/2
アボカド……………80g(1/2個)
トマト……………100g(小1個)
サニーレタス…30g(3～4枚)

エネルギー

●1人分

エネルギー……………243kcal
たんぱく質……………15.5g
脂質……………12.6g
炭水化物……………14.1g
塩分……………0.5g

栄養ポイントはココ!

平成27年の国民健康栄養調査では、食塩摂取量の平均値は男性11.1g/日、女性9.4g/日です。厚生労働省推奨の食事摂取基準(2015年版)の食塩摂取の目標量は男性8.0g/日未満、女性7.0g/日未満です。今回、酸味や香りを効かせた柑橘「すだち」、体内の余分なナトリウムを体外に排泄する働きがあるカリウムたっぷりの「アボカド」を使った一品をご紹介します。但し、カリウム制限のある場合は注意をしましょう。無理せず食事の減塩を勧めましょう。

今回の表紙

藤原紀香さんと福井を歩く。

結ぶきずな健康ラリー時の一枚です。赤十字広報特使の藤原紀香さんは、赤十字カラーである赤と白のファッションに赤十字のペンダントをコーディネート。ウォークラリーでは、子どもたちにスタンプを押したり、ゴールした参加者に笑顔で声をかけてくれるなど、紀香さんの気さくな人柄にふれとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。



＋福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

〒918-8501 福井県福井市月見2丁目4番1号
TEL.0776-36-3630代 FAX.0776-36-4133
E-mail webmaster@fukui-med.jrc.or.jp
http://www.fukui-med.jrc.or.jp/
広報に関するご意見、ご感想をお待ちしています。

フルハイビジョン3Dモニター搭載！ 手術支援ロボット (ダヴィンチXi)の導入

腎臓・泌尿器科副部長 河野真範

特集



ダヴィンチXi



当院ダヴィンチチームのメンバー（医師、看護師、臨床工学技士）

当科では限局性前立腺癌に対する手術治療として2010年より腹腔鏡下前立腺全摘除術を開始し、良好な経過を得てきました。この度、手術支援ロボット ダヴィンチを導入し2016年2月より運用を開始します。また最新機種であるダヴィンチXiの導入は日本で7施設目となります。

ロボット手術では質の高い手術が可能と考えますが、ダヴィンチのどこが優れているのでしょうか？この機械はもとも戦地で兵士の治療を遠隔

操作で行う目的で開発されました。現在でも遠隔操作は技術的には可能ですが、倫理的な観点から行われていません。術者は患者さんと同じ部屋で機械を操作し、カメラや鉗子を動かして手術を行います。手術はロボットが勝手にやってくれる訳ではなく、あくまで術者が操作します。フルハイビジョン3Dモニターによる鮮明な視野はダヴィンチの大きな利点です。ダヴィンチでは非常に良好な立体視野での手術が可能であり、安全で確実な処置が可能

です。またダヴィンチのもう一つの利点として多関節の鉗子による複雑で繊細な動きがあります。人間の手や腹腔鏡の鉗子では困難な動きを狭い空間で、ブレる事無く操作する事が可能です。これらの利点により通常の開腹手術や腹腔鏡手術に比べて質の高い手術が可能であり、比較的習得が容易であるため広く受け入れられています。米国では前立腺全摘の9割以上はロボット手術で行われており、もはや標準治療となつてい

2016年 新年のご挨拶 院長 野口正人

4次元放射線治療装置「Vero4DRT」



新年明けましておめでとうございます。地域の皆様には、良き年を迎えられた事とお慶び申し上げます。

昨年、当院は病院創立90周年を迎え、新棟「先進中央棟」の落成、がん治療の最前線へ今、そして未来へ「記念シンポジウム、赤十字広報特使の藤原紀香さんを迎えての「結ぶさずな健康ラリ」などの記念行事を執り行いました。その節には、地域の皆様から温かいご支援をいただき、ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

また、昨年11月をもちまして健診センターの改修工事、本館外来の改修工事も終わり、管理棟や職員棟などの耐震化改修工事から始まった「病院再整備計画」を完了する事ができました。これもひとえに、地域の皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。

さて、今年は心機一転して、創立100周年に向けて再スタートしたいと考えています。全職員がそれぞれの分野でより一層の努力を行い、患者の皆様にはゆとりのある療養環境の中で、安全で安心できる医療を受けていただきます。

病院本館の外来改修工事では、センサー化構想を強化する配置にしました。先進中央棟にがん診療センター、腎（腎

臓泌尿器透析）センター、アイセンターを造りましたので、本館1階には呼吸器センターを、本館2階には脳神経センターと消化器センターと女性専用外来を配置しました。今後はこれらのセンターを軸にして、またそれ以外の診療機能も強化して、高齢化社会の大きな課題である「生活習慣病」、「生活機能病」に向かっています。高度の専門医療を中心にして、治し支える医療を充実していきます。そして、かかりつけ医の先生方との医療連携を深めて参ります。

昨年新たに導入した4次元放射線治療やロボット支援手術などは今年からフル稼働しますので、その新治療技術を駆使して、「体と心に優しい医療を提供する病院づくり」を進めて参ります。そして、「人道・博愛の精神のもとに、県民が求める優れた医療を行います」という病院理念の下、地域の皆様の健康長寿に貢献したいと考えています。今年も、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

終わりに、今年一年の皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶いたします。

福井赤十字病院 創立90周年を記念して2つのイベントを開催!!

結ぶぎずな健康ラリー

福井赤十字病院では、11月14日に創立90周年を記念して「結ぶぎずな健康ラリー」を開催しました。結ぶぎずな地域とともに「をモットーに、地域の皆さんに赤十字の魅力や特徴を楽しく理解していただくことを目的に行いました。

参加者は小学生親子約120名。赤十字広報大使 藤原紀香さんをはじめ地域密着型の地元球団福井ミラクルエレファントの選手や青少年赤十字の高校生ボランティアとともに、地元の歴史や赤十字にまつわるクイズをしながら、健康ウォークラリーを楽しみました。

AED講習で、藤原さんは「赤十字の考え方は難しいことではなく、皆さんの心の中にあるもの。今日の経験を身近なところで行動に移しましょう」と、

福井ミラクルエレファントの選手らとともに、子どもたちを激励し、講習を終えた子どもたち一人ひとりに「赤十字キッズサポーター」のバッジを手渡しました。

子どもたちからは、「紀香さんに教えてもらったAEDを使うことはとても大切」ということを忘れないようにしたい、「赤十字マークはいのちを守ってくれるマーク。その意味を知って、世界はつながっていると感じました」などの感想が聞かれ、参加者は終始キラキラした表情で、全ての企画に最後まで興味をもって参加いただきました。

参加された皆さん、そして、このイベントを温かく見守り支えてくださった地域の皆さんに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



特別シンポジウム

福井赤十字病院が開院した90年前、死亡原因の第一位は胃腸炎、つまり感染症でした。今はがんが第1位で、ここ35年間変わってはいません。高齢化社会になりがんは増え続けていて、日本人の2人に1人ががんにかかる時代です。しかし、がんに対する研究は積極的に行われ、そのおかげで約60%は治る時代になりました。その成果の一端を知っていただき、がんになっても前向きに生きていただきたという思いから、このシンポジウムを企画、11月3日に実施いたしました。

がん治療はどんどん進化しています。第1部では「より高度で緻密な腹腔鏡手術を支える支援ロボット（外科 藤井秀則部長）」、「患者さんの身体に負担が少ない放射線治療（放射線科 坂本匡人副部長）」、「最新の肺腫瘍治療法（呼吸器科 出村芳樹部長）」の話。第2部では、患者さんの遺伝子情報に合った治療と予防をということで、京都大学 乳癌外科准教授 佐藤史



佐藤史先生

山田泰広先生

〜ディルムに憩いの場を〜 エキナカフエオープン

緩和ケア病棟（通称・エキナケア）では、毎週火・金曜日14時〜16時に、ディルムでエキナカフエを開いています。緩和ケア病棟（エキナケア）に入院している患者さんのご家族の方々がほっと息つける憩いの場をつくりたいというスタッフの思いからスタートしたエキナカフエは、ボランティアさん2名の協力のもと実現しました。エキナカフエでは、ボランティアさんの淹れてくれる美味しいコーヒー

を楽しみながら、患者さんがハーモニウムを演奏しみんなで歌ったり、患者さん自身が講師になるあやとりや編み物、手話の教室や、患者さんのご友人によるお話や演奏会を行っています。先日は、入院患者さんのご家族の人数式を行ったり、職員がギターや歌を披露したりもしています。これからも患者さんご家族の気持ちに寄り添い、心身ともに安らげる時間を共有したいと思っています。

エキナケアは漢方薬として知られている花の名前で、花言葉は「癒し」です。

ボランティア



クリスマス会の様子



演奏会



スタッフによる演奏会♪ギターを弾いているのは外科の藤井医師です。「ふるさと」「紅葉」などの童謡をみんなで歌いました

新郎新婦とスタッフによる手作り人前式。こちらは新郎新婦入場の時の1枚です



ご協力いただいているボランティアさん

クリスマス会

人前式

認定看護師 紹介①

安全においしく食べることを考え、支援します。 「摂食・嚥下障害看護認定看護師」

私達は当たり前のように「ご飯を食べる」「お茶を飲む」ことができています。さらに、食事は、家族や友人と楽しく話をしながら...というように楽しみの一つにもなります。

しかし、今まで当たり前のように食えることができていても、病気になるや突然の嚥下障害により食えることができなくなることもあります。さらに、高齢になると、入院したことで体力が低下しやすくなり嚥下障害になることもあります。嚥下障害は誤嚥性肺炎になったり、栄養不

良になったりするなど生命に関わることも少なくありません。そのために、摂食・嚥下障害看護認定看護師として、医師、看護師、リハビリスタッフ、管理栄養士と協力して「安全に食べる」ための支援を行っています。

当院では、外来においても嚥下機能評価を行っています。「最近、水分でよくむせる」「飲み込みにくい」など症状があれば、外来担当医師や外来看護師、または、看護外来（ルピナス）においても相談できますので、お気軽にご相談下さい。



前号には口腔ケアの取組みを紹介しました

少しでも気になることがあればご相談ください

摂食・嚥下障害看護認定看護師

板岡 利恵

【担当看護外来】
・がんサポート外来
・摂食嚥下看護外来



看護外来の受診を希望される場合は、看護外来までご連絡ください

認定看護師 紹介②

認知症は周りの方のサポートがとても大切です。 「認知症看護認定看護師」

認知症とは、当たり前の生活を行っていたのにも関わらず、ある時から物事を忘れがちになり、生活がうまく営めなくなってしまう病気です。認知症は怖い病気、偏見を持ちやすい病気として捉えられ、認知症をもつ人は不安を抱えています。

認知症になってもその人が一人の生活者であることを基本に、認知症看護認定看護師として、認知症になっても不安のない環境を提供し、その人らしく生活ができるように支援します。そして、認知症を持つ人の家族の気持ち

に寄り添い、不安を緩和していきます。

昨年9月先進中央棟にて、もの忘れサポート看護外来を開設しました。毎週火曜日に認知症症状やもの忘れがある患者さん及びそのご家族の困り事や不安を聞き、接し方など一緒に考え、行動・心理症状(BPSD)に繋がらないように支援します。また、患者さんやご家族のみならず、医療関係者からの相談にも応じています。明るく生活するためのサポートを一緒に考えていきましょう。

ご家族からの相談上位トップ3

- ①デイケアに行かない。どうすればいいか？
 - ②急に怒ってしまうが、どうすればいいか？
 - ③会話が成り立たないがどうすればいいか？
- これらの相談に応じています。



認知症について初めての方には、パンフレットでのご説明を行います



面談の様子

認知症看護認定看護師

山本 隆

【担当看護外来】
・もの忘れサポート
看護外来



看護外来の受診を希望される場合は、看護外来までご連絡ください

一般社団法人日本損害保険協会 寄附金による医療機器の整備

一般社団法人日本損害保険協会からの寄附金を財源とし、交通災害等救急医療体制の強化を目的とした医療機器(超音波診断装置1台、人工呼吸器2台)の整備を行いました。

これにより、緊急手術を要する腹部外傷などの患者さんへの迅速な治療計画の実施や集中治療室で高度な

呼吸管理を必要とする患者さんへの対応など、より充実した診療体制を整えることができました。



テーマは「脳卒中」市民公開講座開催

12月19日(土)当院にて市民公開講座を開催し、約150名の方にご参加いただきました。今回のテーマは「脳卒中」。当院脳神経センターの医師より、脳卒中(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血)の予防や治療についてお話しました。

寒い冬の時期は脳卒中の患者さんが増加する傾向にあります。誰にでも身近な病気の話題に、参加された

皆さんは熱心に耳を傾けていました。

当院では年3回市民公開講座を開催しております。当院ホームページなどでお知らせしていますので、気になるテーマがありましたら、ぜひご参加ください。(次回は3月5日(土)。テーマは「腎臓」の予定です。)



毎年恒例の心温まるクリスマス イベントが開催されました

今年も12月18日(金)に本館1階エントランスホールにて仁愛女子高等学校コーラス部による「クリスマスコンサート」in 福井赤十字病院 Winter 2015を開催しました。

今年は、「たしかなこと」「夢見たものは」「花は咲く」「クリスマスメドレー」「ふるさと」「ぜんぶ」など8曲とアンコール2曲を披露していただきました。

「クリスマスメドレー」では可愛らしい振り付けを織り交ぜて楽しい雰囲気、「花は咲く」は会場みんな

歌ったり、会場全体があたたかい雰囲気になりました。

また、12月22日(火)には、今年で60回目となる伝統行事「クリスマスキャンドルサービス」を行いました。近代看護の母であるナイチンゲールが夜1本のろうそくの灯かりで、傷ついた兵士の看護を行ったことに由来するキャンドルサービスですが、今年も約180人の職員が参加し、「神よ人々を苦より救ひたまへ」「きよしの夜」「諸人こそぞりて」を歌いながら院内を巡回しました。

クリスマスコンサート



キャンドルサービス

